

デシカント除湿機／空調機

産業分野のニーズに応える

新晃工業

低温再生型軸に豊富な機種構成



藤原 博史 副部長

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長 田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5）は、潜頭分離空調技術に基づくデシカント除湿機／空調機をラインアップし、産業用空調における低温排熱の有効利用、湿度コントロールによるエネルギー損失の少ない空調の実現といったニーズに応えている。

同社のデシカント除湿機／空調機は、産業用途向けとして、低温再生型デシカントローターも採用し、優れた除湿性能を発揮する低露点除湿空調機「デシコンドライ」SD D型、低温再生型デシカントローターを採用しながらコージェネシスシステムや冷凍機の排熱を活用できる一般空調向け低温再生型デシカント空調機「デシコンエア」SD A型、水冷ヒートポンプ型デシカント空調機「ドライコンビ」SD C型、大幅なコンパクト化（容積比52%減、床面積比56%減）を実現したコンパクト型デシカント空調機A J I SD型などがある。これまでの導入事例では「学校、製薬工場、一般オフィスビルなど幅広い分野」（技術部副部長・藤原博

史氏）で実績を持つ。近年では夏期冷房設定温度を28度Cとし、CO₂排出削減を目指すクールビズに対応する「COL BIZ空調システム」の引き合いも高まりを見せているという。外気熱を除湿後の再熱に利用し、温熱源不要のレヒート方式をはじめとするラインアップで対応している。一般にビルの耐用年数は50年から60年とされ、その間に空調設備は2回〜3回の更新を繰り返す。市場ではバブル期に導入された空調設備が更新期に入っており、同社としても豊富な市中ストックを背景に最適なソリューション提案で案件獲得を目指す。